

教師と生徒「知的な遊び」



ワタナベエンターテインメント会長

吉田 正樹さん (59) =1978年卒

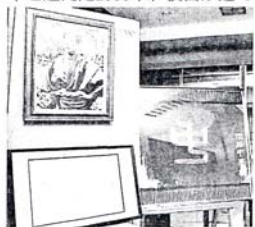


＝宮間俊樹撮影

よしだ・まさき 1959年兵庫県姫路市生まれ。東京大学法学部卒、83年フジテレビ入社。AD時代は「オレたちひょうきん族」「笑っていいとも!」、ディレクターやプロデューサーとして「夢で逢えたら」「笑う犬の生活」「爆笑レッドカーペット」などに携わる。2009年に退社し、吉田正樹事務所代表、ワタナベエンターテインメント代表取締役会長に就任。

歴史語る品々「校史記念室」

姫路西高校には校舎1階に「校史記念室」がある。創立130周年を迎えた2008年、校舎が建て



替えられた際に貴重な品々の保管場所として設けられた。目を引くのは大正時代に作られた旧制姫路中学時代の校旗＝写真右。鮮やかな朱色を地に、金糸で校章が施されている。目録によると1915（大正4）年、校友会有志が寄付したものだ。校歌「友にあたう」の作詞は姫路中学で学び、小説家や翻訳家として活躍した阿部知二＝写真左上＝、作曲家・山田耕筰の直筆楽譜＝同左下＝がある。

他にも、映画「キューポラのある街」（62年）の監督・浦山桐郎が卒業生である縁から、主演の吉永小百合が「浦山監督の思い出」として執筆した文書、卒業生の俳優・藤岡琢也が「渡る世間は鬼ばかり」としたためのサインもある。

明治時代から戦後間もない頃の教科書やノート、姫路西高校の歴代の生徒が読み上げてきた「入学宣誓文」など、数々の品々が学校の長い歴史を物語っている。

姫路西高校

兵庫県姫路市

■人と同じが嫌い
 放課後は「仕入れ」と称して姫路城と姫路駅をプロデュースした大ヒット番組「下りヒアの泉」。役には立たないけど「明日誰かに教えてくれる」、思わず「ハハ」と発してしまう雑学を取り上げた。高校生活は、そんな番組のルーツさながらだった。

■欲求は革新の源
 フジテレビの「仕入れ」と称して姫路城と姫路駅をプロデュースした大ヒット番組「下りヒアの泉」。役には立たないけど「明日誰かに教えてくれる」、思わず「ハハ」と発してしまう雑学を取り上げた。高校生活は、そんな番組のルーツさながらだった。

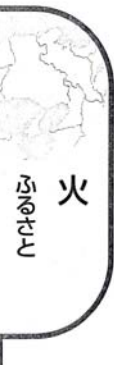
わたしの母校

■欲求は革新の源
 フジテレビの「仕入れ」と称して姫路城と姫路駅をプロデュースした大ヒット番組「下りヒアの泉」。役には立たないけど「明日誰かに教えてくれる」、思わず「ハハ」と発してしまう雑学を取り上げた。高校生活は、そんな番組のルーツさながらだった。

フジテレビのプロデューサーとして数々のヒット番組を手がけ、現在は大手芸能事務所ワタナベエンターテインメント会長の吉田正樹さん(59)。人々を楽しませるコンテンツを世に送り出すには、人と同じ「仕入れ」をしてはいけない。「不良ではなかったけど、逸脱していたなあ。兵庫県立姫路西高では貪欲で知的好奇心にあふれる生活を送った。」

「地理の森一男先生が授業でいきなり『ししね』、アルプス……」と世界の山脈を延々と語りだす。それはまるで「アイス王」のように見えた。ある時、友人と「ヨーロッパで最も秀でた国はどこか」と雑談していた。フランスだ、ドイツだと話していたら「いや、イギリスだ」と英語の阿部敏之先生が割って入り、まるで友達のように

「地理の森一男先生が授業でいきなり『ししね』、アルプス……」と世界の山脈を延々と語りだす。それはまるで「アイス王」のように見えた。ある時、友人と「ヨーロッパで最も秀でた国はどこか」と雑談していた。フランスだ、ドイツだと話していたら「いや、イギリスだ」と英語の阿部敏之先生が割って入り、まるで友達のように



「だ」とちょっとした優越感にひたっていた。人と同じことをするのが嫌いだ。女の子に平安時代の歌と『和歌でラフレターを書いたみたい、化学部ではヒカールでコーヒーを飲んでみた」……。

論陣を張った。漢文の土井克己先生は試験に出さうもない『老子の谷神』を読んだら、と勧めた。エロチックな解釈もできるが、それは、世の中の根源は何かと考えさせられる深いものだった。受験勉強が全てではなく「知的な遊び」ができる関係が生徒と教師との間にあった。

火 水 木 金 土
 カルチャー ちよい旅 見・聞・楽 学ぶ・育つ・挑む